

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700163		
法人名	医療法人 徳寿会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	吉野川市鴨島町内原432番地		
自己評価作成日	平成24年9月1日	評価結果市町村受理日	平成23年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では、4つのユニットが様々な面で協力しあって、利用者の暮らしを支援している。また、医療機関が併設しており、日曜日や祝祭日、夜間等においても、医師や看護師と連携を図って利用者の医療面での支援を行っている。事業所の行うカンファレンスにすべての家族の参加を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道沿いに立地している。同一法人の運営する医療機関や介護老人保健施設等を併設しており、医療面における利用者や家族の安心に繋がっている。管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を十分に理解したうえで、利用者一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。また、家族やボランティアの協力を得て、様々な行事や外出の支援を行っている。事業所内は明るく、広い廊下や共有空間があり、季節に応じた飾りつけや行事の写真、利用者がお世話をしている園芸等を飾っている。管理者と職員は、さらなるサービスの質の向上に向け、法人とともに積極的に研修会を開催している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域のなかで、自分らしく暮らすという運営方針に基づいて、サービス提供理念である和・話・輪を基本に、利用者それぞれが役割を持ち家庭的な環境のなかで生活できるよう支援している。	新規職員の採用時、地域密着型サービスの理念と事業所の理念“和・話・輪”の意味や内容を伝達している。全職員で理念を共有化し、日ごろのケアで意識しつつ実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には交流が出来ていないが、定期的に近隣のスーパーに買い物に行く事で交流を図っている。	日ごろから、利用者は買い物や散歩時に近隣の方と挨拶を交わしている。また、地域の保育所の子どもたちの来訪があり交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会等を通して、認知症への理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議には、家族様に参加頂いて意見交換している。そこで出た意見は、全体会の議題とし、早急に対応できるようにしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所から取り組みの報告を行ったり、利用者や家族から様々な意見を出してもらったりしている。出された意見は、職員全体会で話しあって日ごろのサービスに繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会への参加依頼や、毎月の入居状況等の報告を行っている。又、介護計画作成の指導や悩み等を相談したりとし、協力関係を築いている。	直接、市担当窓口へ出向いて事業所の取り組み等を報告している。市担当者からは、書面やメールで情報提供を得ている。また、市グループホーム協会の主催する研修会へ積極的に参加して情報交換を行い、連携体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束廃止への取組が図られ、身体拘束はしないという認識を全職員が持っている。しかし、ハード面上、玄関を施錠しているが、時間的に開放し、威圧のない空間作りをしている。	全職員が法人の年次研修計画に基づく職場内研修へ参加し、身体拘束をしないケアのあり方について理解を深めている。建物の構造上、安全面に留意して玄関を施錠しているが、威圧感のない空間づくりや時間帯を決めて開錠するなどの工夫を行って、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する勉強会等に参加している。その他にも、虐待についての新聞記事等を議題として話し合いをし、意義向上の取り組みを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修や勉強会で、全職員が内容を把握できるよう努めている。相談があった場合には対応できるよう体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明している。特に、利用料金や起こりうるリスク、重度化についての対応方針、医療連携体制等については詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置したり、家族会や運営推進委員会など、意見・苦情を表せる機会や場を多くしている。そのことについては、必要に応じてカンファレンスを行うと共に経過を記録し、後日報告をしている。	家族の面会時や運営推進会議時に意見や要望等の把握に努めている。出された意見は、職員会議時に話しあって、日ごろの支援に繋げている。また、玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員1人ずつの面談を行い、意見や要望を聞くと共に、目標管理シートならびに、達成状況の評価等し、改善点や要望点を提案する機会を設けている。	事業所では、職員一人ひとりの目標管理シートを導入し、達成状況の評価を行って課題や改善か所の抽出を行っている。年2回、管理者ヒアリングを実施し、業務等に対する意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の目標に対する設定並びに実践に、全職員が取り組んでいる。また、半期毎に達成状況を自己評価とともに評価者との面談による、指導、助言を受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間で計画されている研修への参加や毎月開催される各種委員会に出席し、知識や技術向上のための取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野川市グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を合うことで学びと交流の機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や、見学に来てもらう事で、希望などを聞くことが出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が求めているものを理解し、事業所としては、どのような対応が出来るか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や家族様の想い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な面で不安を抱えている時、手を握ったり声をかけたりと互いにそっと気遣ってくれる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスや行事への参加の機会を作ると共に、悩みや相談などを気軽に話せる環境や空間を作る事により、共に本人を支える関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は少ないが知人などの面会により交流は維持出来ている。	利用者の馴染みの友人の来訪がある。また、同一法人運営する他サービス事業所との交流等を行っている。遠足等の行事では、利用者の馴染みの場所へドライブに出かける支援等も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	椅子やソファなどの家具や空間を利用し、利用者同士が声を掛け合える環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には、病室を訪問したり、退所後の家族様も気軽に来所し、お茶を飲みながら楽しいひと時をもっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や行動によって本人様の思いや意向を見出し出している。又、カンファレンスでも本人の意向を重視している。	日ごろの利用者との関わりのなかで、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。本人にカンファレンスへ参加してもらい、意見を出してもらってサービスに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までのバックグラウンドアセスメントシートと共に新たにアセスメントシートを作成することにより、再度生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人希望のニーズにそった生活日課表を作成することにより心身状態や残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め、職員全員でモニタリング、カンファレンスを行い、意見やアイデアをその都度言い易い環境を作っている。	3か月に1回、本人や家族の参加を得てカンファレンスを実施している。出された意見等を介護計画書に反映させている。利用者の心身状態に応じて、随時、計画書を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入により、ケアの実践に活かせるよう、情報共有に努めているが、気づきの点での記録が充分でないと思われる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院併設の特性を活かし、他部署との連携を図り、栄養指導などの協力もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(祭り)には参加しているが、地域資源を十分に活かしていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は併設病院がかかりつけ医と成っているが、歯科、外科、眼科は家族同行で受診している。	事業所は、医療機関との併設型であり、内科はすべて併設医療機関が主治医となっているが、その他の専門科は、馴染みのかかりつけ医の受診を支援している。歯科の往診もある。家族の協力のもと受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化等に気づいた事があれば、直ちに看護師に報告し適切な医療に繋げている。外来連絡箋を作成している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐ為に、カンファレンスに参加したり、ソーシャルワーカーとの情報交換をし、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様や家族様の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心して納得した最期を迎えられるように随時意志を確認しながら取り組んでいる。	事業所は、利用契約時に重度化や終末期の対応について説明を行っている。また、医療機関と連携し、利用者の状態にあわせて説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員においては、応急手当、初期対応の訓練が充分でない為、今後の課題。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署及び併設施設の協力を得て、利用者と共に避難訓練や消化訓練をしている。自然災害(地震など)を想定しての訓練実施は行なっているが地域との協力体制が不十分である。	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。災害対策マニュアルを策定している。災害を想定し、3日分の備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務については、責任ある取り扱いと管理は出来ている。しかし、人前でトイレの声かけなど羞恥心に配慮できていない場面もある。	事業所では、プライバシーの保護に関する事例検討会や研修会を実施している。正しい知識と理解を深め、日ごろの支援に反映している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面での自己決定がしやすいように、認知度に合わせた方法(二者選択など)を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の会話を通し、本人様の希望やニーズを捉えるよう、理念を基に「話」を重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様が好みの衣類を持って来ていただく事により、生活の活性化につなげている。又、櫛などを洗面所に置き整容している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前、机を拭いたり、お茶を準備し、食後にはスタッフと一緒に下膳を行なっている。	利用者一人ひとりの力や状態にあわせて、配膳や片づけなどの役割を担ってもらっている。また、利用者と職員でジャムづくりなどを行っている。食事はお膳で提供しており、利用者は自分の食器で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量チェック表を作成している。状態に合わせて、好みの飲食物をすすめることにより、食事量や水分量が確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全介助の入居者様もいるが、毎食後できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、たいの方は、日中ホールトイレを使用している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレで自立して排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便チェック表を作成し、一人一人の排泄パターンを把握している。又、体動が少ないことが原因のひとつと思われる為、毎日体操やレクリエーションを取り入れ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様のペースに合わせて入浴出来る様工夫している。(時間、スタッフなど)	本人のペースで入浴することができるよう支援している。また、ゆず風呂等を取り入れて、季節を感じつつ入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気分の不安定時や就寝前には添い寝する事により安心感を持ってもらい良眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーを保管し職員が内容を把握出来る様にしている。内服薬の変更時には特に情報を共有し症状の変化について観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出の機会が少なくなった為、デリバリーなど活用し気分転換を図ると共にメニューで嗜好品を選ぶ事により自己決定にもつながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自立の入居者様は家族様協力の基、外食時飲酒を楽しめている。しかし、その他の入居者様は行事以外の外出が少ない。	家族の協力を得たうえで、地域のお祭りや外食等へ頻繁に出かけている。また、年間行事計画に地域の様々な行事やドライブを取り入れて実施している。本人の希望に応じて、日常的に近隣の神社やスーパーへ出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者様は預かり金になっているが、各々の財布を用意してもらい買い物時には支払いやすい工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話希望があった場合や電話があった場合には周囲にも配慮している。しかし、手紙は書けないが月次報告と共に利用者様の作品を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓に遮光フィルムを貼り、シャンデリアで灯りが暗いめの為、天候の悪い日(曇り)には昼夜間違う時がある。しかし、季節の花などを取り入れるなどし、季節感を出している。	事業所のリビングや食堂等の共有空間には、行事の写真や絵画、季節の花等を飾っている。また、広い廊下や玄関等は清掃が行き届いており、居心地良く過ごすことのできる空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室があり、気軽に団欒できる場がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知度の重度化に伴い、家人より「何もない方が安心です」との希望があり殺風景な居室が多い。	利用者は、居室に家族の写真や使い慣れた家電製品等の馴染みある品物を持ち込んでいる。利用者一人ひとりにとって居心地の良い居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用箇所(トイレ、風呂)に分かりやすい表示をしている。食器棚の下部に本人の使用している食器を収納し、使いやすいキューブを机の上に置く事により出来る事を増やしている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			4ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域のなかで、自分らしく暮らすという運営方針に基づいて、サービス提供理念である和・話・輪を基本に、利用者それぞれが役割を持ち家庭的な環境のなかで生活できるよう支援している。	地域のなかで、自分らしく暮らすという運営方針に基づいて、サービス提供理念である和・話・輪を基本に、利用者それぞれが役割を持ち家庭的な環境のなかで生活できるよう支援している。	地域のなかで、自分らしく暮らすという運営方針に基づいて、サービス提供理念である和・話・輪を基本に、利用者それぞれが役割を持ち家庭的な環境のなかで生活できるよう支援している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的には交流が出来ていないが、定期的に近隣のスーパーに買い物に行く事で交流を図っている。	日常的には交流が出来ていないが、定期的に近隣のスーパーに買い物に行く事で交流を図っている。	日常的には交流が出来ていないが、定期的に近隣のスーパーに買い物に行く事で交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会等を通して、認知症への理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。	家族会等を通して、認知症への理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。	家族会等を通して、認知症への理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会議には、家族様に参加頂いて意見交換している。そこで出た意見は、全体会の議題とし、早急に対応出来る様にしている。	2カ月に1回の運営推進会議には、家族様に参加頂いて意見交換している。そこで出た意見は、全体会の議題とし、早急に対応出来る様にしている。	2カ月に1回の運営推進会議には、家族様に参加頂いて意見交換している。そこで出た意見は、全体会の議題とし、早急に対応出来る様にしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会への参加依頼や、毎月の入居状況等の報告を行っている。又、介護計画作成の指導や悩み等を相談したりとし、協力関係を築いている。	運営推進委員会への参加依頼や、毎月の入居状況等の報告を行っている。又、介護計画作成の指導や悩み等を相談したりとし、協力関係を築いている。	運営推進委員会への参加依頼や、毎月の入居状況等の報告を行っている。又、介護計画作成の指導や悩み等を相談したりとし、協力関係を築いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束廃止への取組が図られ、身体拘束はしないという認識を全職員が持っている。しかし、ハード面上、玄関を施錠しているが、時間的に開放し、威圧のない空間作りをしている。	法人全体で身体拘束廃止への取組が図られ、身体拘束はしないという認識を全職員が持っている。しかし、ハード面上、玄関を施錠しているが、時間的に開放し、威圧のない空間作りをしている。	法人全体で身体拘束廃止への取組が図られ、身体拘束はしないという認識を全職員が持っている。しかし、ハード面上、玄関を施錠しているが、時間的に開放し、威圧のない空間作りをしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する勉強会等に参加している。その他にも、虐待についての新聞記事等を議題として話し合いをし、意義向上の取り組みを図っている。	高齢者虐待防止に関する勉強会等に参加している。その他にも、虐待についての新聞記事等を議題として話し合いをし、意義向上の取り組みを図っている。	高齢者虐待防止に関する勉強会等に参加している。その他にも、虐待についての新聞記事等を議題として話し合いをし、意義向上の取り組みを図っている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			4ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修や勉強会で、全職員が内容を把握できるよう努めている。相談があった場合には対応できるよう体制を整えている。	法人内研修や勉強会で、全職員が内容を把握できるよう努めている。相談があった場合には対応できるよう体制を整えている。	法人内研修や勉強会で、全職員が内容を把握できるよう努めている。相談があった場合には対応できるよう体制を整えている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明している。特に、利用料金や起こりうるリスク、重度化についての対応方針、医療連携体制等については詳しく説明している。	時間を取って丁寧に説明している。特に、利用料金や起こりうるリスク、重度化についての対応方針、医療連携体制等については詳しく説明している。	時間を取って丁寧に説明している。特に、利用料金や起こりうるリスク、重度化についての対応方針、医療連携体制等については詳しく説明している。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置したり、家族会や運営推進委員会など、意見・苦情を表せる機会や場を多くしている。そのことについては、必要に応じてカンファレンスを行うと共に経過を記録し、後日報告をしている。	苦情箱を設置したり、家族会や運営推進委員会など、意見・苦情を表せる機会や場を多くしている。そのことについては、必要に応じてカンファレンスを行うと共に経過を記録し、後日報告をしている。	苦情箱を設置したり、家族会や運営推進委員会など、意見・苦情を表せる機会や場を多くしている。そのことについては、必要に応じてカンファレンスを行うと共に経過を記録し、後日報告をしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員1人ずつの面談を行い、意見や要望を聞くと共に、目標管理シートならびに、達成状況の評価等し、改善点や要望点を提案する機会を設けている。	職員1人ずつの面談を行い、意見や要望を聞くと共に、目標管理シートならびに、達成状況の評価等し、改善点や要望点を提案する機会を設けている。	職員1人ずつの面談を行い、意見や要望を聞くと共に、目標管理シートならびに、達成状況の評価等し、改善点や要望点を提案する機会を設けている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の目標に対する設定並びに実践に、全職員が取り組んでいる。また、半期毎に達成状況を自己評価とともに評価者との面談による、指導、助言を受けている。	個人の目標に対する設定並びに実践に、全職員が取り組んでいる。また、半期毎に達成状況を自己評価とともに評価者との面談による、指導、助言を受けている。	個人の目標に対する設定並びに実践に、全職員が取り組んでいる。また、半期毎に達成状況を自己評価とともに評価者との面談による、指導、助言を受けている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間で計画されている研修への参加や毎月開催される各種委員会に出席し、知識や技術向上のための取り組みを行っている。	法人内で年間で計画されている研修への参加や毎月開催される各種委員会に出席し、知識や技術向上のための取り組みを行っている。	法人内で年間で計画されている研修への参加や毎月開催される各種委員会に出席し、知識や技術向上のための取り組みを行っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野川市グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を合うことで学びと交流の機会を得ている。	吉野川市グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を合うことで学びと交流の機会を得ている。	吉野川市グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を合うことで学びと交流の機会を得ている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			4ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や、見学に来てもらう事で、希望などを聞くことが出来ている。	事前に本人様に見学・相談に来てもらった、面談に行き、希望などを聞く事が出来ている。	本人、家族様共に事前に相談や面談を行い、生活状況の把握や希望を尋ねている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が求めているものを理解し、事業所としては、どのような対応が出来るか事前に話し合っている。	家族様が求めているものを理解し、事業所としてはどのように対応出来るか話し合っている。	相談や面談時に家族様が求めているもの、これまでの経緯を尋ね、事業所としての様に対応出来るか事前に話し合っている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様の想い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。	見学・相談時、本人様や家族様の思いや状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスに繋げるようにしている。	相談時に本人様や家族様の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で互いに声を掛け合い、得意な分野や知識を発揮出来るようにし、お互いの関係を築いている。	利用者様から「これ、お願いします」・「片付けておきます」と言う言葉が出て「ありがとう」と言う事場でお互いの関係を築いている。	役割活動やレク等の得意分野での力を発揮してもらえる様、声かけに工夫し互いに労わり、楽しみ合える関係作りを心掛けている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスや行事への参加を依頼し、気軽に悩みや相談等を話せる環境を作ることにより、本人と共に支える関係を作っている。又、電話連絡や面会時、月次報告にて近況報告を行い、情報の共有に努めている。	家族様が来所された際には、生活の近況報告を行い、情報を共有した上でより良いサービスに繋げていける様にしている。	家族様来所時には、日頃の状態を報告・相談し協力関係を築いている。又、毎月利用者様の様子や出来事を月次報告書にて送付し、情報の共有に努めている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力により、外出等にて関係が保てている。外出が少ない方は、家族様より写真や手紙等、持参してもらうことで、馴染みのある交流が図れている。	家族様だけでなく、昔からの知人や自宅近所の方が面会に来る事が増えてきており、気軽に来所してもらえぬ雰囲気作りを心掛けている。	知人や、友人等の面会があり継続的に交流も出来ており、気軽に来所してもらえぬ雰囲気作りも心がけている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごしやすい雰囲気を作ることでお互いが気軽に話し、関わる事が出来ている。又、自室で過ごす方にも、訪室し声を掛け合うことも多い。	家事活動など出来る利用者様だけがするのではなく、スタッフ声かけで誰もが、それぞれの活動が出来るよう支援している。	レクリエーション活動を通じて、皆で過ごす時間や個別に話を聞いたり、利用者同士の関係が円滑になるよう、媒体となっている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			4ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設への入院時には、病室へ訪問し関係を継続している。又、病院内で会った際には、挨拶と共に近況の様子を伺っている。	サービスが終了し、在宅に帰られた方(家族様含め)も行事に参加されたり、受診後など近くにこられた際に、のぞみに寄ってくれる関係が出来ている。	他の事業所に移られた場合には、生活状況や注意が必要な点について情報を提供し、連携を図っている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、行動によって本人の想いや希望、意向の把握に努めている。又、カンファレンスにて本人の意向や希望を尊重している。	日々の何気ない態度、行動を観察し気持ちを汲み取れるよう心がけ、家族様からの情報も得ながらスタッフ間で話しあっている。	日々の何気ない態度、行動を観察し気持ちを汲み取れるよう心がけ、思いや希望を引き出し、本人の視点に立って家族様と交えて検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までのバックグラウンドアセスメントシートと共に、家族様から得た情報を基に、新たにアセスメントシートを作成することにより、再度生活歴などの把握に努めている。	入居時にはバックグラウンドアセスメントにて、生活歴を詳しく把握するようにしている。	入居時(入居前)にはバックグラウンドアセスメントシートやフェイスシートを活用し、本人様、家族様から生活歴等の情報を収集している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活日課表や、アセスメントシートを作成し、心身状態や生活リズムの把握に努めている。	利用者様との会話や、家族様の面会時、生活歴など過ごし方の情報を得るなど把握出来る様にしている。	行動や動作の様子を見守り、共に行う事で出来た事は記録し、スタッフ全員が把握出来る様にしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに添って、アセスメントや本人様・家族様参加のカンファレンスを基に、介護計画を作成している。	利用者様、家族様参加のカンファレンスの他に来所時や電話にて要望を聞き、アセスメントやモニタリングを用いて、職員との意見交換をし介護計画を作成している。	本人様、ご家族様参加のカンファレンスを開催し、意見交換の場を持ち、要望を反映した介護計画をユニットスタッフ全員で考え、作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に、介護計画の見直し、評価を実施している。日誌も身体状態等を含め、全職員が分かりやすいように記載し把握している。	介護計画書に沿ったカルテ様式を作成し、月に1回の評価、3ヶ月に1回のモニタリング後の見直しに活かしている。	ケアプランに沿ったカルテの様式を作成し、月1回の評価、3ヶ月に1回のモニタリングの見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の会話等から、希望や意向を把握している。状況に応じて、その都度、介護計画の見直しもしている。	家族様、面会時に帰宅の希望があれば外出したり、外出後に外泊になる場合もあり、迅速に対応出来るような関係作りを心がけている。	通院・送迎・往診など、家族様の日々、変化する状況や要望に柔軟に対応出来る様に取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			4ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、市の職員が参加している。又、近隣のスーパーや、飲食店に行く機会を作り、阿波踊りや五九郎祭り等の地域行事にも参加し、交流を図っている。	運営推進会議に、市職員が参加している。阿波踊りや五九郎祭り等の地域行事に参加し、コンビニや食堂・弁当屋などの周辺機関とも協力関係を築いている。	運営推進会議には、市職員や民生委員の方が参加してくれている。阿波踊りや五九郎祭り等の地域行事に参加し、コンビニ・食堂・弁当屋などとの地域との連携・協力関係を築いている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や、家族様の希望にその都度応じている。内科以外の病院へは、家族様に付き添い依頼し、職員は情報の把握に努めている。	利用者様や家族様の希望されるかかりつけ医があれば家族様が付き添いされ受診しており、日々の状態を伝えるなど、情報交換をしている。	利用前からのかかりつけ医の医療を受けられるよう、家族様と協力し普段の様子や変化を伝えられる様にしている。又、訪問診療などのケースもある。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情等の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化等に気付いたことがあれば、直ちに看護師に報告し、適切な医療に繋げている。外来連絡箋を作成している。	体調や些細な変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化に気づいた事があれば、直ちに看護師に報告し、適切な医療に繋げている。外来連絡箋を作成し、活用している。	外来連絡箋を作成・活用し、体調や些細な表情の変化などを報告・相談し、適切な医療に繋げている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐ為に、カンファレンスに参加したり、ソーシャルワーカーとの情報交換をし、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来るようアプローチしている。	入退所時、カンファレンスに参加し、情報交換をする事により、医療関係者との連携を密にとれる様にしている。	家族様と回復状況などを情報交換しながら対応可能な段階でなるべく早く退院出来る様に支援している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様や家族様の意向を踏まえ、医師・職員が連携を取り、安心して納得した最期が迎えられるように、随時、医師を確認しながら取り組んでいる。	利用者様や家族様の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心して納得した最期が迎えられるように随時意志を確認しながら取り組んでいる。	利用者様や家族様の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心して納得した最期が迎えられるように随時意志を確認しながら取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時対応の研修等に参加し、実施力の向上に努めている。	救急時対応の研修等に参加し、実施力の向上に努めている。	救急時対応の研修等に参加し、実施力の向上に努めている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署並びに併設施設の協力を得て、利用者と共に避難訓練や、消化訓練をしている。自然災害(地震等)を想定しての訓練実施は、行っているが、地域との協力体制が不十分である。	消防署並びに併設施設の協力を得て、利用者と共に避難訓練や、消化訓練をしている。自然災害(地震等)を想定しての訓練実施は、行っているが、地域との協力体制が不十分である。	消防署並びに併設施設の協力を得て、利用者と共に避難訓練や、消化訓練をしている。自然災害(地震等)を想定しての訓練実施は、行っているが、地域との協力体制が不十分である。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			4ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	希望に応じて、入浴やトイレ誘導等、女性職員が対応するなどしプライバシーを尊重している。又、声かけ時には、個々に合わせた言葉掛けや声音等に配慮している。	トイレ使用中や入浴中の札を作っており、プライバシーを尊重した対応を行っている。	プライバシーを尊重し、羞恥心・自尊心に配慮した声かけ、対応を心掛けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が伝えられるよう、ゆっくりと傾聴、声かけをするようにしている。又、希望・訴えがあった際には、自室等にて傾聴しプライバシーの配慮に努めている。	スタッフから決め付ける事が無い様、本人が自己決定出来る様な雰囲気作り工夫している。	思いや希望を表出出来る入居者様には1対1でゆっくりと話をする時間を持つ様になっている。又、自己決定の難しい方には、簡単な選択肢を用意し自己決定出来る様に支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランに添いながら、日々の体調や気分等に考慮し、その都度希望に合わせた生活が送れるように努めている。	利用者様それぞれが、自分の時間を持ちパズルや花の水やりなどの趣味を楽しまれている。	本人様の気持ちを尊重し、心ゆくまでTV観戦を楽しんだ後、就寝を勧めている。又、食事時間をゆっくり持ち、個々のペースに合わせている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類やヘアメイクを行い、身だしなみを整え、お洒落を楽しんでいる。そのほか、困難な方には、他入居者様が整髪されたいの気遣いも見られている。	天候や、その日の活動内容に合わせた身だしなみを心掛けており、認知症状の重度な方が簡単に選ぶ事が出来る様な選択肢に工夫している。	朝の更衣時には、本人様の希望を取り入れたコーディネートを心掛けている。行事等の際にはご家族様の協力により、本人の好む衣類を持参してくれている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が栽培した野菜を使って、好みの一品を食卓に添えたり、又、風物詩の食べ物をういた行事などで食事に対する意欲・向上に繋げている。	食事前、机上を拭いたり、お茶を準備し、食後にはスタッフと一緒に下膳を行っている。	食事前後に机上を拭いたり、お茶の準備や下膳を一緒に行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量チェック表を作成している。1人1人の状態、好みに合わせてお茶ゼリーや甘味物、おにぎり等を勧めることにより食事量・水分量の安定に努めている。	食事・水分量をチェックしている。あまり、摂れていない時は家族様が持参しているカロリーメイト、ジュース、かぼちゃ等、本人の好む物を勧めている。	家族様と連携を図り、本人様の好みの物(パンや果物、牛乳・ジュース等)を間食・補水にて提供し食事・水分量の安定に努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは出来ている。口腔ケアに対して困難な方は、ガーゼの拭き取り介助や、食後のお茶の飲用を勧めるようにしている。	毎食後、洗面台に誘導し、歯ブラシや義歯洗浄、うがいを勧めている。夜間には義歯を預かり、ポリドントにて洗浄している。夜間、ポリドント洗浄が不可能な方には、日中に短時間でも行っている。	個々に合わせた歯ブラシを使用し、うがいの理解が難しい、又、嚥下困難な方には白湯・ガーゼなど準備し使用している。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			4ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、1人1人の排泄リズムを把握しつつ、観察や早目の声かけを行っている。	生活の中での残存能力を活かして病院では紙オシメを使用していた方がトイレにて排泄出来る様に介助に工夫しながら、紙パンツや布パンツの使用が増えている。	羞恥心に配慮し、少し離れて見守り・声かけする等、工夫している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便チェック表を作成し、1人1人の排泄リズムを把握している。運動を取り入れ、乳製品や果物を用い、便秘予防に取り組んでいる。	医療機関との連携を図り、緩下剤を使用すると共に水分や運動等、生活習慣にも工夫している。	医療との連携を図り、緩下剤や浣腸を使用すると共に運動や水分補給などで生活にも工夫している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の体調や、希望に応じ、勧めている。又、時間を置いたり声かけに工夫し気持ちよく入れるよう支援している。生活暦から、温泉好きな方には入浴剤を使用するなどして、入浴を楽しめるように工夫している。	本人様の希望に合わせて、夜間でも安全な入浴が出来るようにしている。	本人様の希望に合わせて、入浴拒否のある入居者様には、気の合うスタッフが声をかける等し、チームプレーを行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や、表情、希望等に考慮し、休息を勧めている。夜間、眠れず起きている方には、温かいお茶を勧めたり、就寝前まで付き添ったりし安心して眠れるよう努めている。	抱き枕やクッションを使用し、安楽な体勢で休んで頂けるようにしている。	体調や希望に合わせて、居室での適度な臥床を勧めたり、日中の活動を取り入れた生活リズムの安定に努めている。又、クッションを使用し、座位・臥床時には楽な体勢で休んで頂ける様にしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、処方箋のコピーを保管し、職員が内容を把握出来るようにしている。内服薬の変更時には、特に、情報を共有し、症状の変化について観察を行っている。	院外受診の方もおられる為、内服薬の変更などの把握が徹底出来る様、分かりやすくファイルしている。又、病気に対する知識向上を図る為、勉強会を行っている。	科ごとに薬袋が分かれている為、分かりやすく一覧にしたファイルを作成している。又、薬物情報などは個別にファイリングしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ベランダでの家庭栽培や、手芸、踊りなど、本人の経験や知識を発揮出来るよう支援している。	毎日、決まった時間になると、利用者様から声をかけてくれ、体操や野球観戦等を行っている。	利用者様と相談しながら、散歩や運動、買物などのレクリエーションや簡単に出来るおやつ作りを一緒に行っている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や、阿波踊り等、行事時には普段行かない場所に出掛けている。家人様の協力のもと、歌謡ショーやお墓参りなどにも出掛けられた入居者様もいる。	家族様の協力で外出する機会が増えており、のぞみでの空間の他、戸外で家族様と過ごす時間が作れている。	車椅子利用者様が多い為、近隣のコンビニや神社、食堂などへの外出を主にし、季節に応じた行楽・行事にはご家族様の協力を求め、行っている。



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			4ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の協力も得て、少額のお金を持っている方もいる。家族様から預かっている方は、馴染みのある財布を依頼し、預かっている。買い物時には、自分で支払い出来る様にしている。	家族様より、預かり金としているが、少額を自己管理している利用者さまもおり、売店などでの買い物時には自ら支払いをしている。	家族様と相談の上、自己管理をされている方もいるが、預り金とし預かっている方には、外出時には自分で払えるよう、手渡している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話希望があった場合や、外部から電話があった場合には、周囲にも配慮している。又、月次報告と共に、入居者様からの手紙(簡単な書物・作品・写真など)も同封している。	遠方の家族様から電話があった際には本人に繋ぎ、会話している。	家族様からの手紙やハガキは見やすいよう、飾っている。又、暑中見舞い等を書くようにしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりがよい為に、窓際に「気持ちええなあ」とひなたぼっこをされている方が多い。又、机上には、季節に合った造花等を飾っている。	ホールには共有の日めくりカレンダーを設置している。利用者様がめくり、日付けや曜日を確認している。廊下には利用者様の作品を展示している。	スタッフ、家族様が協力し合い、ホールに壁画や造花、折り紙で作った物を飾っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内でそれぞれ好む場所(ソファや畳)で過ごすことで、憩いの場となっている。又、自室で趣味活動をしつつゆったりと思いに過ごしている。	個々の趣味活動は自室で行う事が多いが、ホールでの共同活動中には新聞をお互いに渡してあげるなどの雰囲気生まれている。	個別に座れるソファを2ヶ所設置。和室では自由に過ごせる様なスペースを設けている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や、小物、位牌を置き、居心地の良い居室となっている。又、殺風景の居室の方もいるが、本人様は落ち着いた環境となっているように思われる。	観葉植物や昔から使い慣れた家具を自室に置き、本人の空間を作っている。	本人様持ちの、ソファやテーブル、TV等の家具を置き、本人の住み慣れた生活空間を作っている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器棚や冷蔵庫の下段には、入居者様の私物・食器類を置くようにし、机上にはヤカンを置き、自ら使用出来るようにしている。	トイレや浴室が分かりやすいように取り外し可能な札をかけたり、進行方向の張り紙などで工夫した表示をしている。	お風呂やトイレの入口には大きく分かりやすい表示をし、トイレ内の手すりには色付きのビニールテープを巻き、認識しやすいように工夫している。